



—ポストドクとキャリアパス支援活動の現状と今後—  
公開データをもとにした物理系人材把握

---

大阪大学先端科学イノベーションセンター  
兼松泰男



# Contents

---

- 物理系人材把握に関する取り組みの現状
- 阪大におけるデータベース構築とデータ解析例



# 物理系人材の把握

---

- 物理系人材はどこに存在し、いかに活躍しているかを把握する
  - 在籍状況
  - 動態 : キャリアパス
- 将来動向予想と問題点を抽出する



# 人材把握のためのデータ

---

- 国の機関の取り組みによるデータ化
- 物理学会名簿データ
- 公開データ



# 今回の手法

---

- 国によるデータ化の促進をターゲットとし、サンプルとしての手法を提示、自主的取り組みも視野に入れる
- 大学に限定。雇用者に限定。可能な領域を先行させる。
  - むしろ、問題は、大学外や非雇用。
- ①文科省データを用いて専攻等のフレームを作成②物理学会データを用いて在籍可能性の高い専攻等をピックアップ③阪大データと突合せ④他大学への展開



## 阪大における研究人材動態データベース構築

---

- 科学技術振興調整費「イノベーション創出若手研究人材養成」事業の採択を受けてキャリアパス事業を全学的取り組みに深化させた
- データベース構築へ向けての障害
  - 全学の組織的決定
  - 研究科ごとの実態把握
  - 事務組織における業務フローへの組み込み
  - 既存データ間の相互乗り入れの困難
  - 常勤と非常勤の取り扱いの差



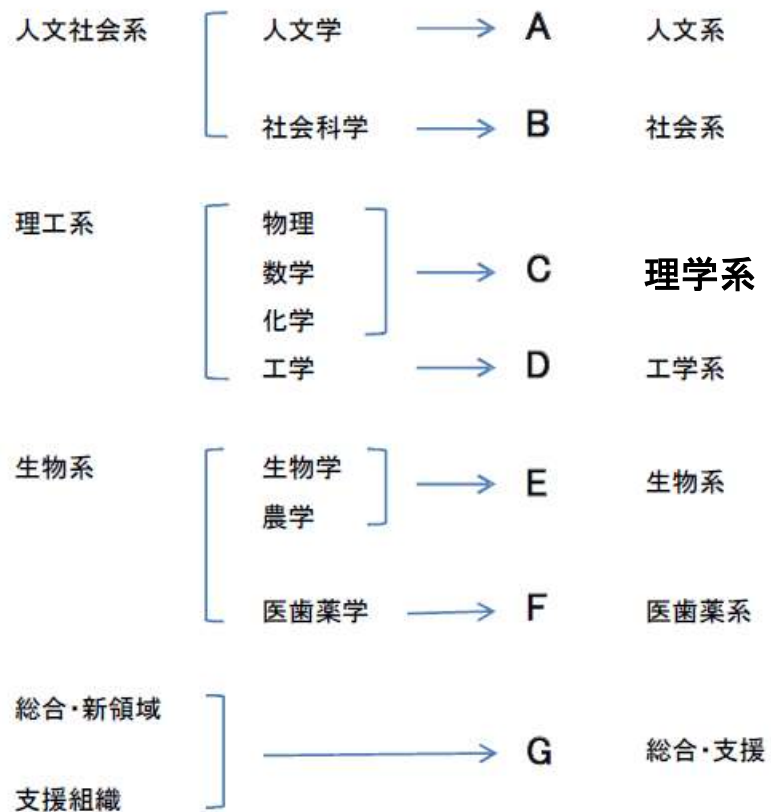
# 研究人材動態データベース

---

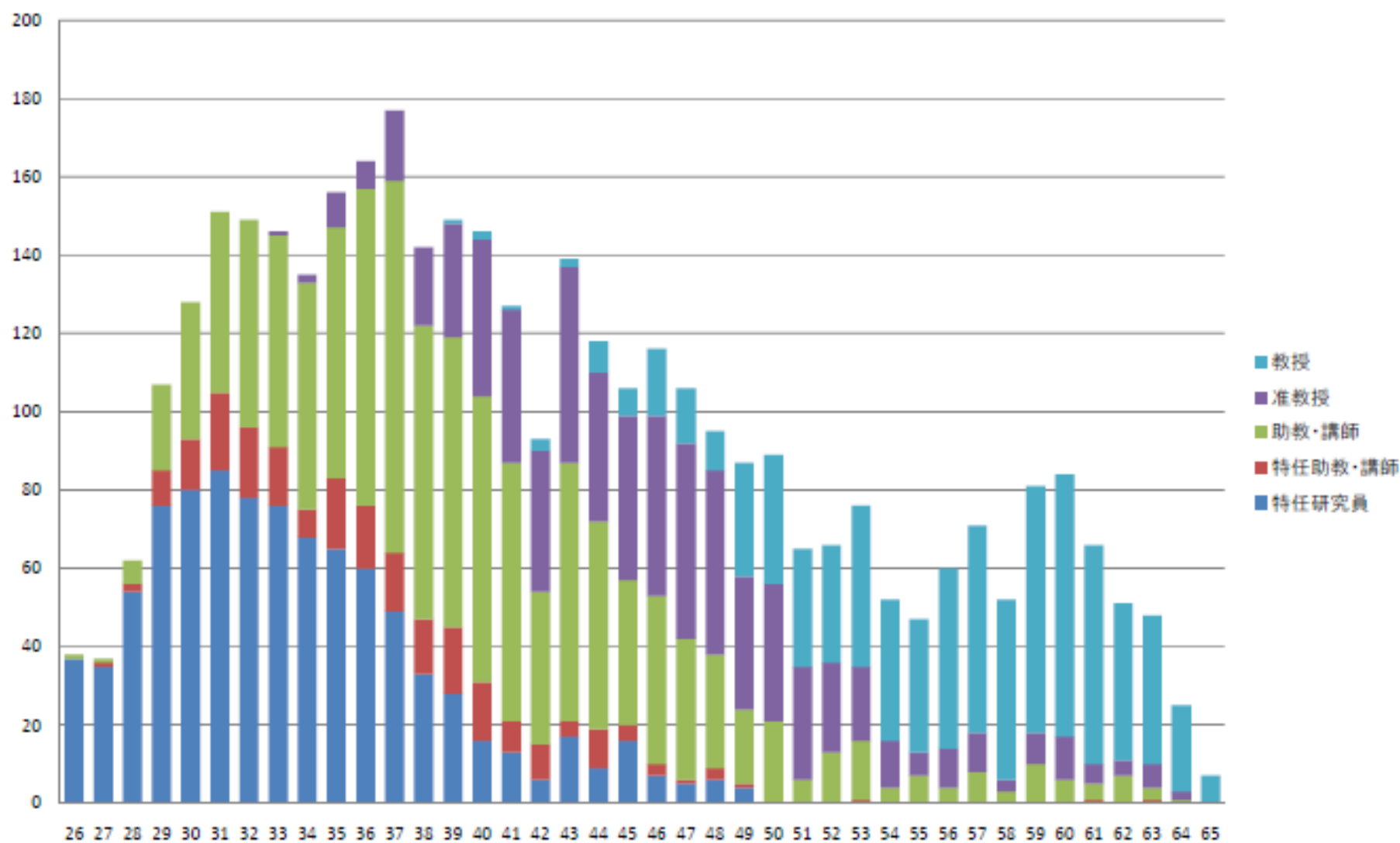
- 2年度のデータ差分により、移動(入出転)を把握
- 採用作業、転出確認作業、学生の就職など、既存の業務フローと結合させる
  - 業務フローの問題
  - データシステムの問題
- 人事データ(作業用符丁として名前を用い最終的には除去)および学生データを基礎とする
  - 専攻等における在籍状況との突合せが鍵
  - 研究者データは網羅性に欠ける

# 阪大における研究人材データ解析

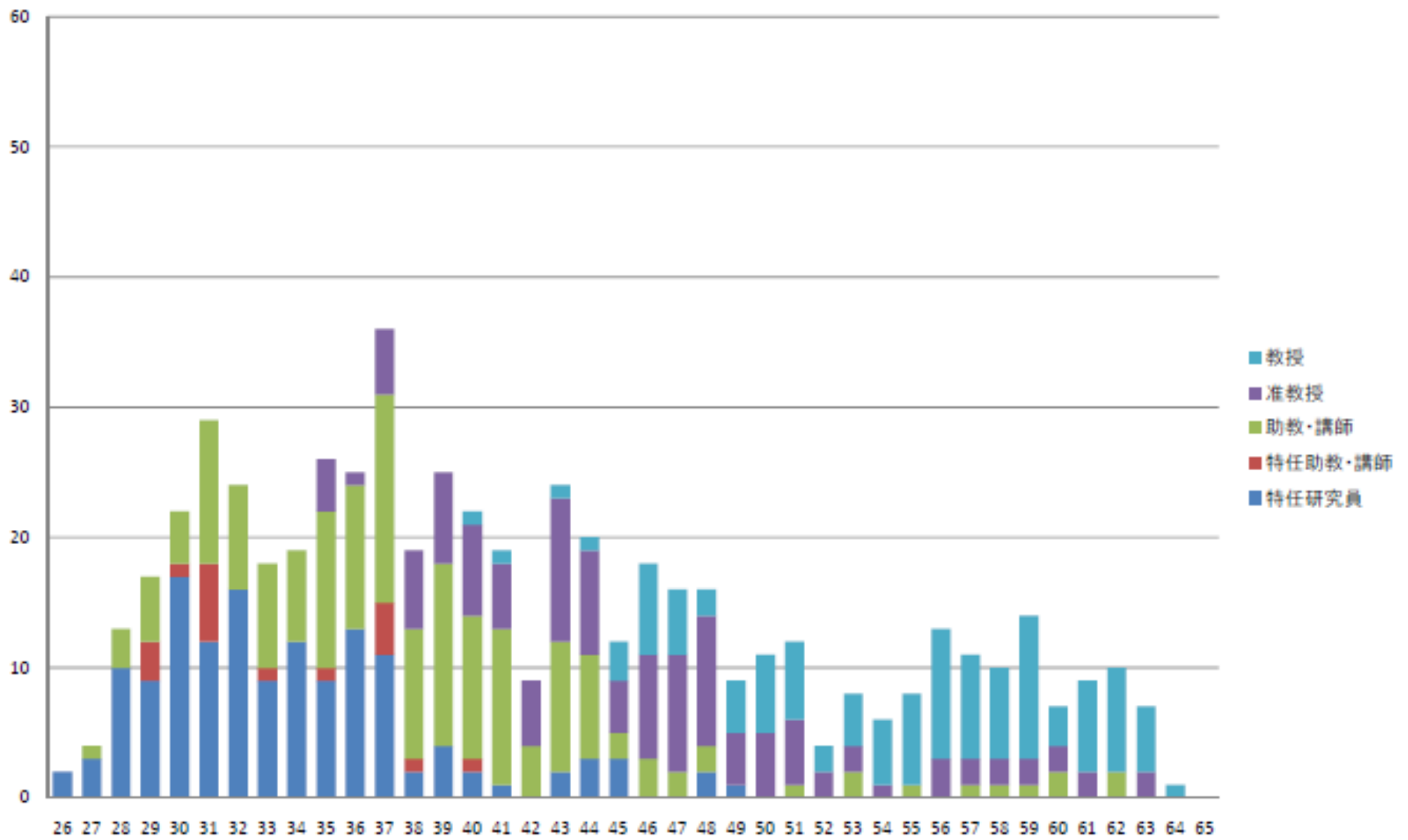
## 分類構造



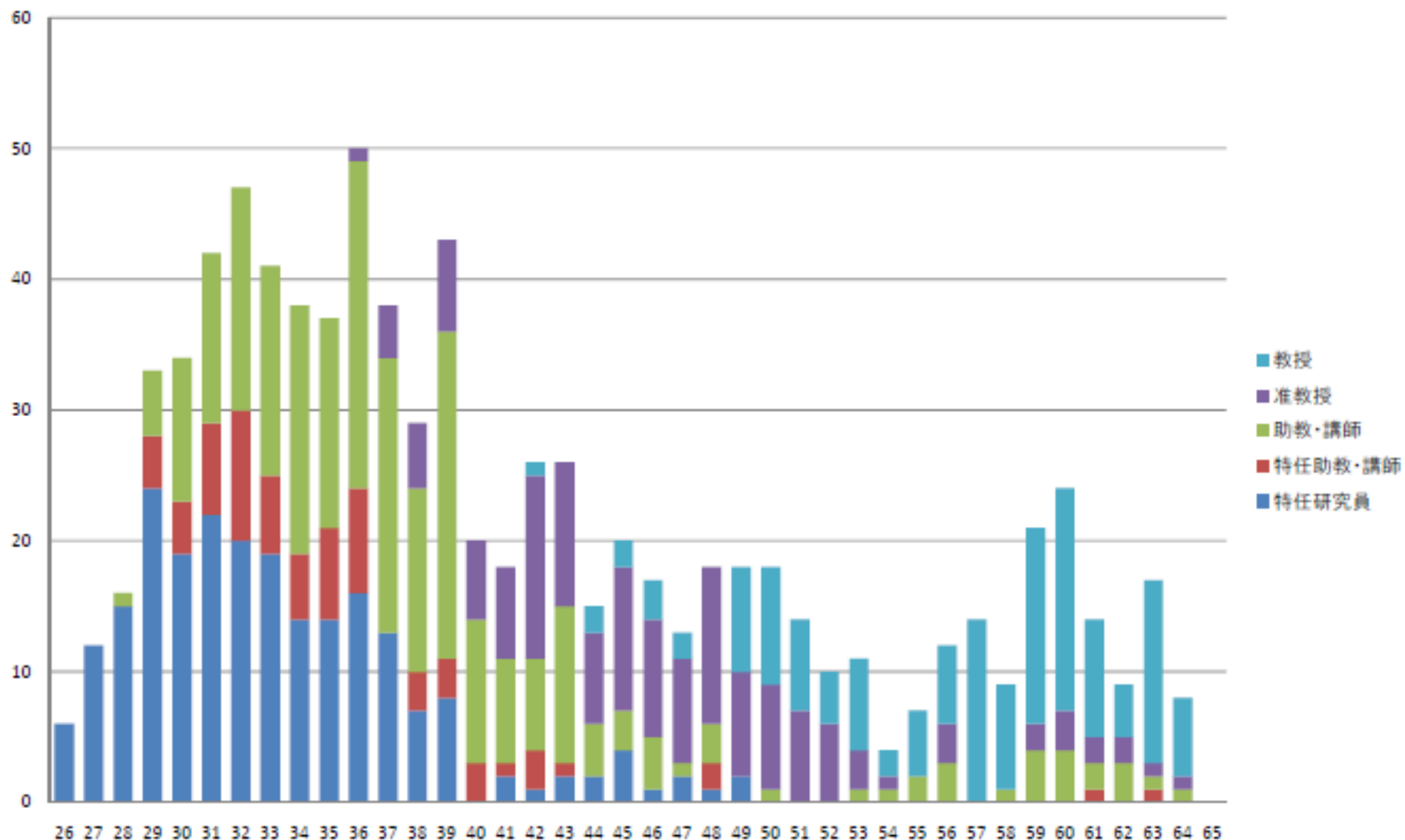
### 2007年度 全学 年齢別職務分布



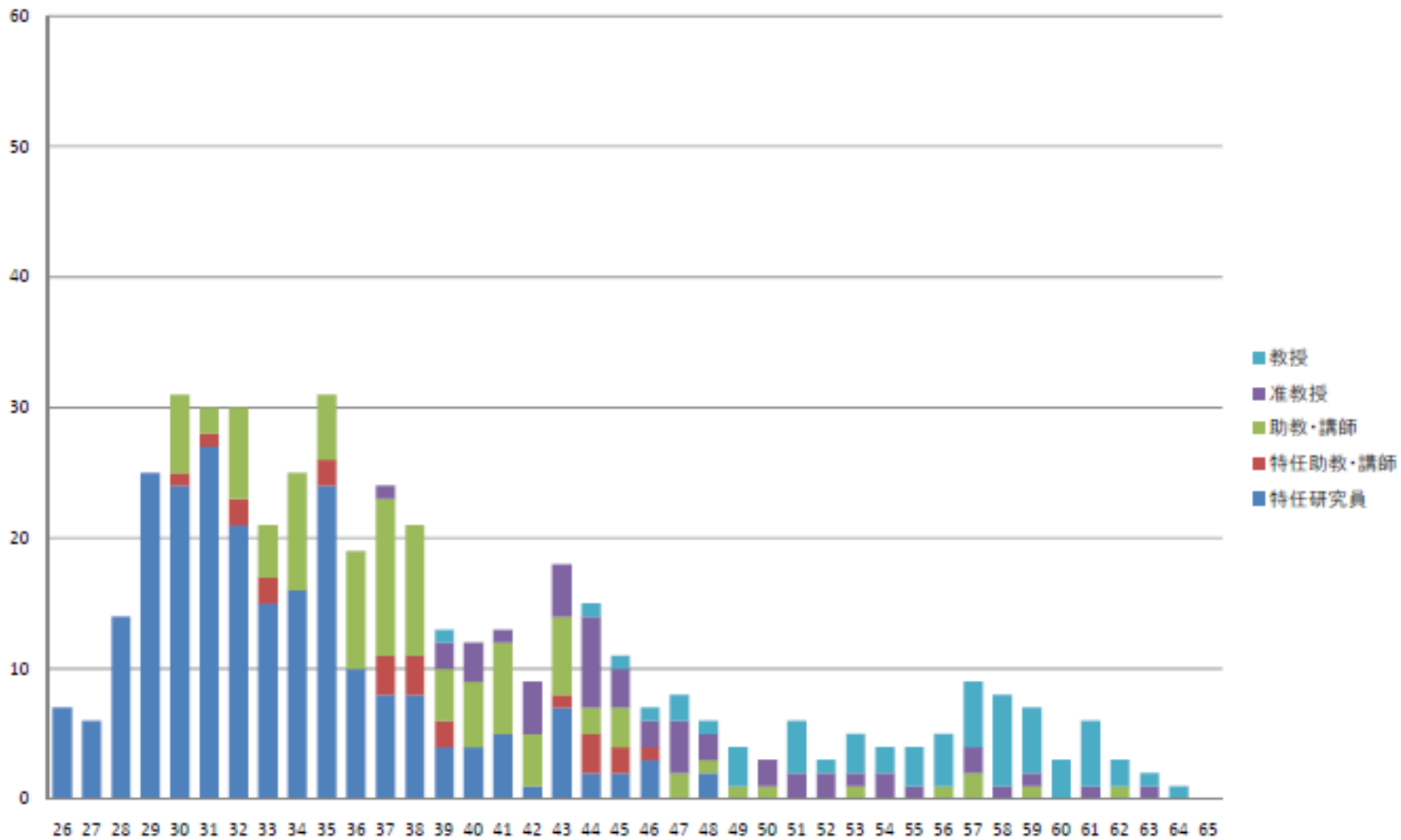
## 2007年度理学系 年齢別職務分布



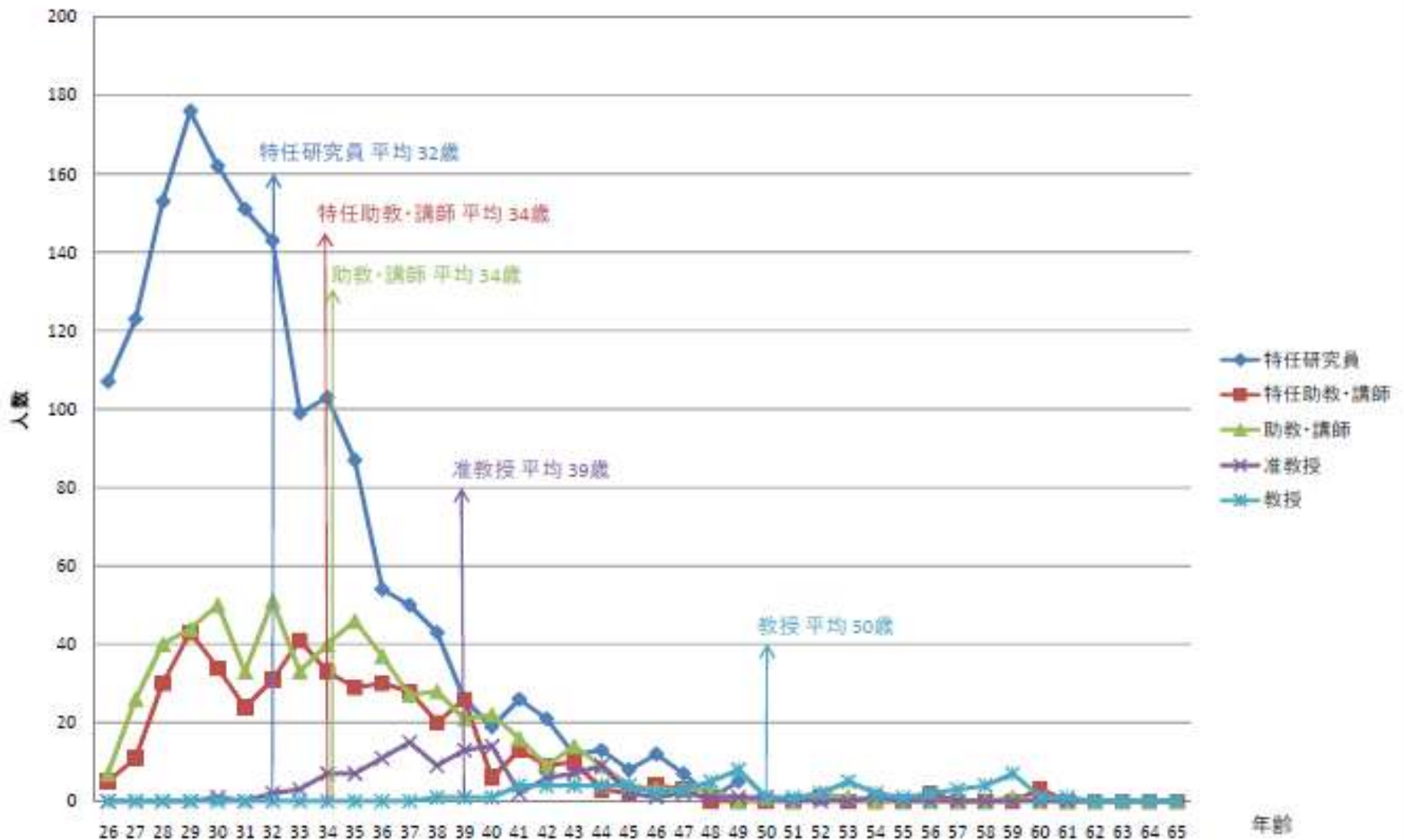
### 2007年度 工学系年齢別職務分布



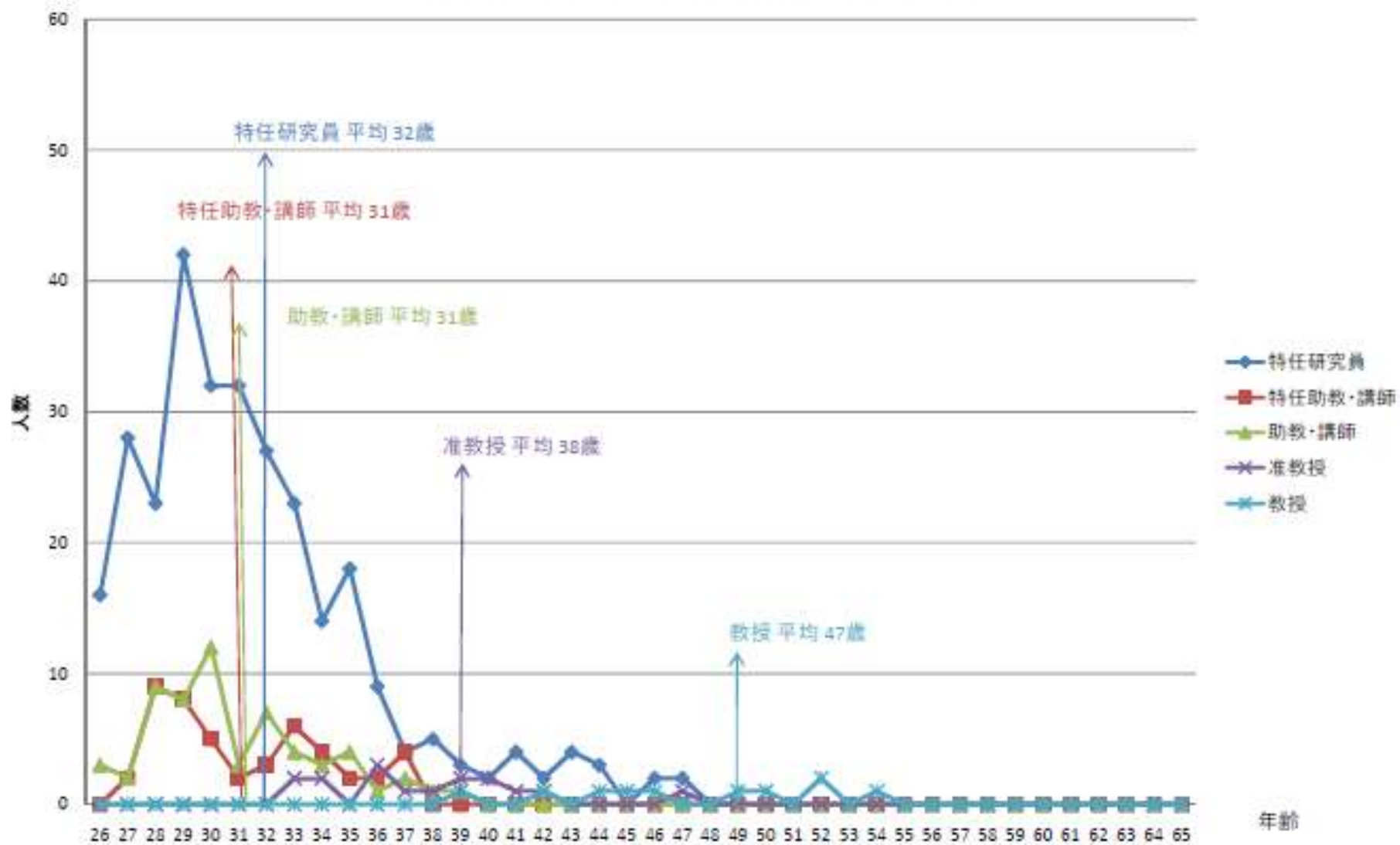
### 2007年度 生物系年齢別職務分布



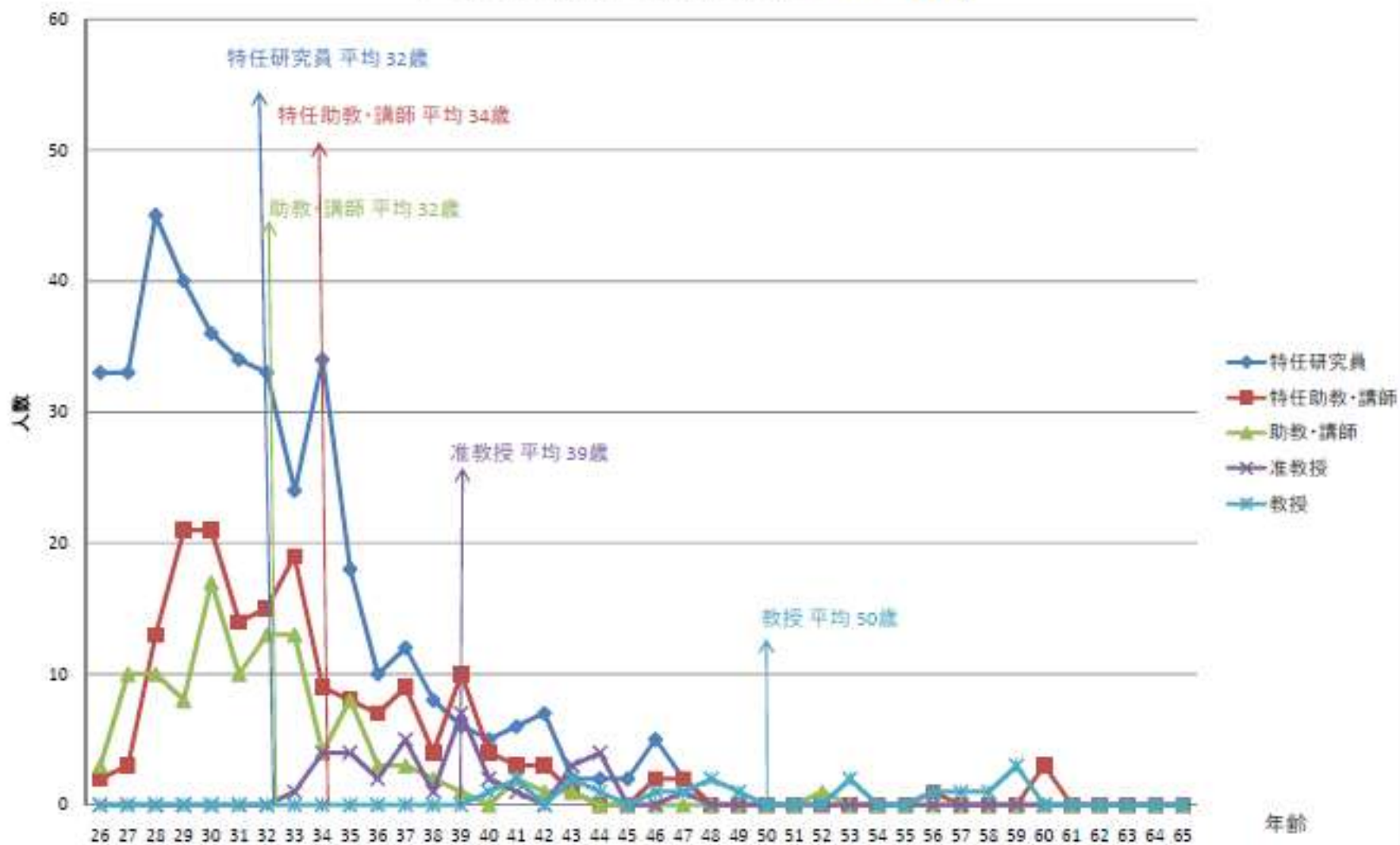
### 全学採用時年齢分布 (2004-2007)



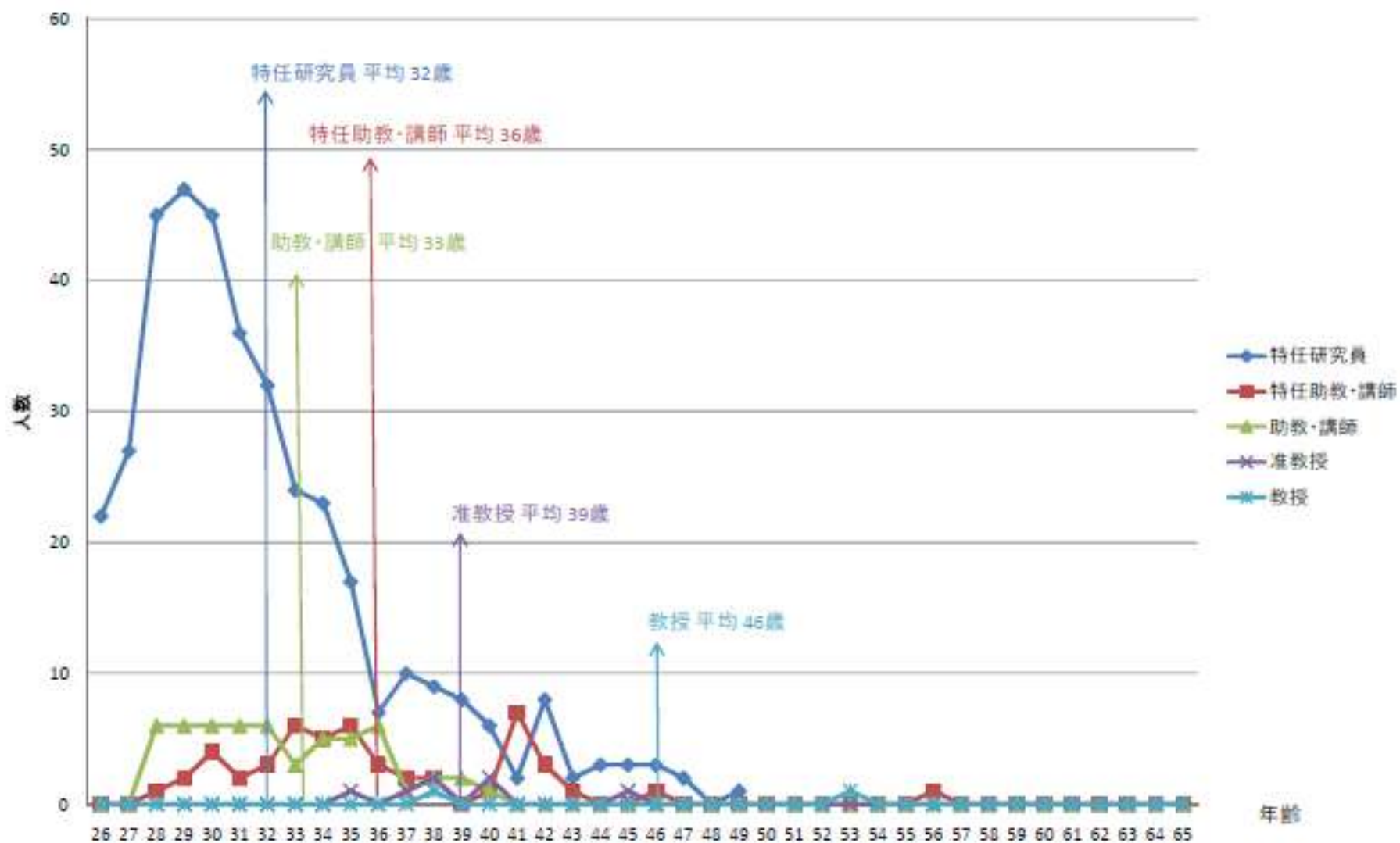
# 理学系 採用時年齡分布(2004-2007)



### 工学系 採用時年齡分布 (2004-2007)



### 生物系 採用時年齡分布(2004-2007)





# 今後の展開

---

- 阪大研究人材動態データベース(来年度稼動予定)との突合せ後、他大学へ展開
- 研究室単位の卒業生名簿の活用
- 研究グループ名簿の活用
- 国の(研究)機関との協働